

わたしの 効果倍増! 教材活用術

楽しみながら学習を進め、社会科の力を身につけるための「社会科資料集」の活用

東京都板橋区立高島第五小学校 早川 大介

はじめに

学習指導要領の改訂にともない、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」や「思考力・判断力・表現力等の育成」などを基本的な考え方として、子どもたちに身につけさせるべき力が明示されました。

社会科では、社会的事象に関する基礎的・基本的な知識・概念や技能の習得、およびそれらを活用する力や課題を探究する力を育成する観点から改善が図られました。

特に、次の点を一層重視することになりました。

- ① 地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること
- ② 社会的事象の意味、意義を解釈すること
- ③ 事象の特色や事象間の関連を説明すること
- ④ 自分の考えを論述すること

このような社会科の力を身につけるための手立てとして、小学校の学習指導要領では、

① 作業的、体験的な学習や問題解決的な学習を一層充実させる。

② 習得した知識や技能を活用して観察・調査したり、各種の資料から必要な情報を読み取ったりする。

③ ②の内容を的確に記録し、比較・関連づけ、総合しながら再構成する。

④ 考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合い、お互いの考えを深めていく。

などが示されています。

以上のことをふまえた上で、ここでは、子どもたちが楽しみながら社会科の力をつけることができるように、私が「社会科資料集」を活用して取り組んでいることについて、次の3つの観点から述べたいと思います。

1. 社会科の学習に関心をもつことができるようにするための活用
2. 思考力・判断力を身につけるための活用
3. 表現力を身につけるための活用

1. 社会科の学習に関心をもつことができるようにするための活用

「社会科の授業では、導入での資料提示が大切だ」ということは、ずいぶん前に先輩から教えていただきました。子どもたちが学習内容に興味・関心をもって学習を進めることができるか否かは、導入での資料提示にかかっていると。当時はまだよくわかっていませんでしたが、今では心から納得することができます。導入で資料の提示が上手いっただかどうかで、子どもたちの反応も大きく変わってきます。

資料提示を失敗すると、子どもたちが授業にのってこず、つい教師がしゃべりすぎる授業になってしまいます。そうになると、子どもたちも少しずつ集中力がなくなり、退屈してしまいます。

けれども、資料提示が上手いくと、子どもたちが授業にのってきます。教師が「この写真を見て気づいたことを教えてください」とひと一言言えば、一生懸命になって資料をじっくり眺め始めます。そこで、「1人3つ見つけてください」と具体的に数を指定すると、さらに意欲的に探し出します。こうなってくると、子どもたちも自分が見つけたことを言いたくって仕方がありません。

また、このような活動を苦手とする子には、教師が寄りそって、1つでよいので一緒に見つけるようにします。1つ見つければ、2つ

日々の授業で使う教材や教具。

隣のクラスや隣の学校のあの先生は、一体どんな使い方をしているのでしょうか？

このコーナーでは、気になる教材活用術を紹介します。

目は自分で探せるようになるでしょう。

そうやって導入で資料から見つけたことを、1人1つずつ発表します。もし発見したことが友達と重なっていたとしても、せっかくだけで頑張っただけで見つけたものなので、子どもの思いを大切に、全員が発表するようにします。そうすることで、どの子も自分が主体的に授業に関わっているように感じることができ、また違った工夫が必要になるかと思えます。

しかし、授業を進めるに当たって、毎時間提示する資料を探すのは相当大変です。必ずしも、学習内容に合った適切な資料がうまく見つかるかどうかはわからないですし…。

私は普段、授業の導入で「社会科資料集」を用います。特に、単元の初めの授業では、資料集の中の資料を示し、これまでに述べてきたような方法で、そこから子どもたちなりの「発見」をするように声かけをします。

やはり資料は、「大きくて見やすい」。「たくさん」の「発見」をすることが出来る「もの」であることが望ましいと思います。

「資料集の○○ページを開いてください」と教師が言っても、子どもたちが資料集を開く間もなく、「うわー」「すごい」と思わず声が出てしまう、鮮明でインパクトのある資料(右下)。そんな資料が、社会科学習への関心を高めることに大きな役割を果たします。



▲授業の導入時に使うインパクトのある資料の一例。(新学社 社会科資料集 5年「わたしたちの生活と食料生産」 p.32～35)

2. 思考力・判断力を身につけるための活用

社会科の授業を通して、思考力や判断力を身につけるためには、次の2点が大切だと思います。

1. 資料(図・写真・グラフなど)を正しく読み取ること
2. 資料を比較したり関連づけたりして、再構成すること

社会科では、まずは、思考したり判断したりするものになる資料を正しく読み取ることができなければなりません。資料の正しい読み取り方は、授業の中で丁寧に指導していく必要があります。私は今年度5年生の担任で、最初の授業のとき、資料集を使って、オリエ

ンテーション的にグラフの読み取り方についての指導をしました。



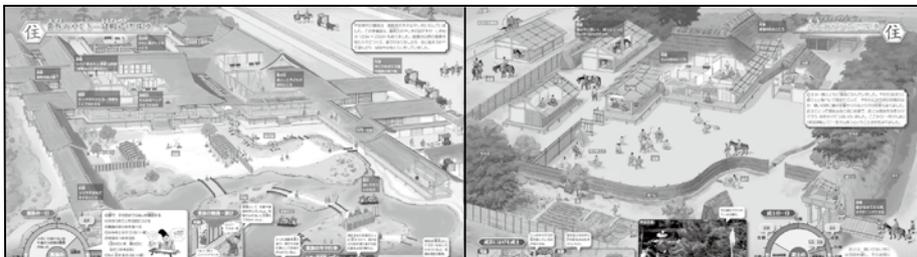
▲新学社 社会科資料集 5年「調べ学習のポイント」 p.12～13

ここがポイント!

- 1 タイトルを読む。何のグラフでしょうか。
- 2 たてじくは何を表しているでしょうか。ここは人数だよ。目もりの単位は? 目もりの単位は? 単位は万人。目もりの単位は10万人だ。
- 3 横じくは何を表しているでしょうか。ここは統計をとった年だよ。何年おきの統計か? 10年だね。右はしは、最初の年の統計だ。
- 4 大きく変化しているところに注目する。男(15～39才)の変化が大きいね。
- 5 この色分けが年別(男の)のうわつけを表しているよ。
- 6 このグラフから、どんなことが読みとれるでしょうか。水産業で働く人全体の数はへって、とくに男(15～39才)の方が大きいね。これからの変化も予想できるね。

オリエンテーションとして、「まずはタイトルを読む」「縦軸・横軸が表しているものをとらえる」「大きく変化しているところに注目する」など、グラフを読み取る際の基本事項を指導します。その後は、学習を進めていく中で、グラフなどの資料が出てくるたびに、「グラフの読み取り方」を思い出させて、正しく読み取ることができているかを確認しながら、確実に定着させていくようにします。そして、資料を読み取る力を使って、複数の資料を比較したり、関連づけたりする活動を繰り返していきます。

▼「貴族の暮らし」と「武士の暮らし」が衣・食・住ごとに見開きになっていて比較しやすい。
下の資料は「住」のページで、観音開き。(新学社 社会科資料集6年「武士の世の中へ」p.35～38)



6年生の歴史学習では、歴史の移り変わりの様子やその原因などを、資料をもとに考察し、理解していきます。

例えば、鎌倉時代(武士の時代)の学習では、私は衣・食・住の3つの観点から、平安貴族の生活と鎌倉武士の生活に関する資料を見比べて授業を進めます。「大きく変わっているもの(こと)」や「全体的に見て、どう変わったか」と言うことができるか」などについて、クラス全体での話し合いを通して考えていきます。新学社の資料集は、2つの時代の資料が見開きページになっています。両者を比較することで、変化の様子や時代の特徴をしっかりとつかみ、それぞれの時代を大局的にとらえます。比較すべき資料同士が隣り合っていて、じっくり見比べて考えることで、子どもたちが新たな発見をし、「そっかーだから〇〇なのか」と、自分で問題を解決していく学習につながります。

3. 表現力を身につけるための活用

表現力を身につけるためには、「自分の意見を表現したい」という意欲をもつことができようようにすることが肝要です。

それでは、どうすれば、資料から「発見」したことや考えたことを表現しようという意欲を高めることができるのでしょうか。

そのためには、これまでに述べたように、まずは、インパクトがあつて子どもの好奇心をくすぐるような資料を提示することが大事だと思えます。その資料をじっくりと、細かいたところまで見ることから始めるように指導します。



▲江戸時代初期の日本橋付近の様子を描いた「江戸図屏風」。(新学社 社会科資料集6年「武士の世の中」p.52～53)
→多くの店が並び、様々な人々にぎわう様子がわかるが、さらによく見ていくと、「女性が少ない」などの特徴にも気づく。

例えば、6年生の資料集にある長篠の戦いの様子(長篠合戦図屏風)や江戸の町の様子(江



戸図屏風)を提示し、「資料をじっくり見て、自分なりの「発見」を5個見つけよう」と投げかけます。ここでさらにひと工夫。一人ひとりにルーペを持たせます。ルーペを持つことにより、「小さなことも見逃さないぞ」と、さらに意欲をもって学習することができます。このように意欲をもって「発見」したことは、みんなに聞いて欲しくて仕方がありません。多くの子どもが手を挙げて発言しようとしています。意欲的に発言し、自分の「発見」や考えたことについて、みんなの前で説明する活動を通して、教師がよりわかりやすい伝え方などをその都度指導していくことで、表現する力が身についてくるのではないかと考えます。

おわりに

社会科に対して苦手意識をもつ子どもは、残念ながら少なくありません。社会科は好き嫌いがはっきりする教科であると言えます。しかし、私は、社会科の学習においては、「どのような資料を、どのように扱うか」、その工夫しだいで、授業に意欲をもって臨む子どもも増えると思います。「社会科資料集」などからよい資料を選び出し、そして、資料をどう扱ったらよいかを子どもが目線でよく考えて授業を展開していければと思っています。